

AGU 青山学院大学 NEWS

Vol.
4

AGUニュース第4号 [10～11月号]
青山学院大学・広報入試センター広報課
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-8111 (代表)
URL. <http://www.aoyama.ac.jp/agunews>



1号館前(青山キャンパス)

特集

学長が語る 新キャンパス利用方針

基本計画・地域との連携・今後の展開

キャンパス再構築に向けて…

綱島総合グラウンドを売却

緑ヶ丘グラウンド(仮称)用地を購入

國學院大學相模原キャンパスの一部を購入

相模原市長からのメッセージ

TOPICS

オープンキャンパスに過去最高の入場者
小型パーソナルヒューマノイド「Mk.5」誕生

報告・お知らせ

2000年度第1回学生表彰
青山学院大学後援会報告
誌上公開講座 Vol.4
転換期のラテンアメリカ

INFORMATION

就職関係行事日程
青山祭
クリスマスツリー点火祭
証明書自動発行機を導入



新キャンパス利用方針が決定

新キャンパス構想——基本計画



学長 半田正夫

●IT革命を見据えた「文理融合キャンパス」へ

既に新聞各紙で報道された通り、2003年4月に神奈川県相模原市に、広大な新キャンパスがオープンします。これにより厚木キャンパス、世田谷キャンパス、そして綱島総合グラウンドを全面移転して、本学は青山キャンパスと新キャンパスの2つのキャンパスに集約されることになります。

新キャンパスの特色を一言で述べるなら「文理融合型キャンパス」です。人文・社会科学系学部と理工学部の学生と教員が同じキャンパスを利用し、交流を深め、そこから21世紀志向の新しい学問が発展していく……そんな教育・研究環境を想定しています。情報通信ネットワークなど、IT・ハイテク環境の充実に、ひとときわ力を入れることはいまでもありません。

新キャンパス開学の数年後に開設をめざす新学部は、こうした新キャンパスのコンセプトを体現した文理融合タイプのきわめてフレキシブルな性格の学部になる予定です。

●人文・社会科学系学部／厚木キャンパスより移転

人文・社会科学系学部の1・2年次は、新キャンパスで学ぶことになり

ます。厚木キャンパスは、午後6時を過ぎると、ほとんど無人化してしまうという現実があります。これは、1・2年次生のみという学生構成、そして同キャンパスの交通アクセスの悪さから仕方のない面もあります。しかし、大学キャンパスとしてそれでは少々寂しいのではないかと感じていました。いつも学生がいる場所、そこそが大学ではないかと……。一方、理工学部の学生が学ぶ世田谷キャンパスは、夜間も実験などで居残っている学生がいます。新キャンパスでは、人文・社会科学系の学生もそうした姿に刺激を受けて、いつでも図書館や研究室などで学問に取り組めるようにしていきたいと思っています。すなわち、「活気のある」キャンパスです。そのため図書館もできるだけ夜遅い時間まで利用できたり、あるいは学生にとって居心地の良い環境の整備に十分配慮していきたいと考えています。

移転の対象となる学部・学科

- ・文学部(教育学科・英米文学科・フランス文学科・日本文学科・史学科)
※心理学科昼間主コース(2001年4月開設に向け、設置認可申請中)
 - ・経済学部(経済学科)
 - ・法学部(法学科)
 - ・経営学部(経営学科)
 - ・国際政治経済学部(国際政治学科・国際経済学科)
- ※いずれも1・2年次生が新キャンパスにて就学。3・4年次生は現行どおり青山キャンパスにて就学。

また、第二部につきましては、今後、改組などを含めた改革を検討していく予定です。

●理工学部／厚木・世田谷キャンパスより移転

理工学部については、1年次生が厚木キャンパスから、2～4年次生と大学院生が世田谷キャンパスから、それぞれ新キャンパスに移ることになります。長らく校舎・施設の老朽化や手狭なスペース等の問題に悩んでいた世田谷キャンパスですが、今回の移転で、広い空間を使って効率的に情報インフラや実験設備の整備を行います。理工学部の教育・研究環境は飛躍的に向上するでしょう。また、従来、あまり接触のなかった人文・社会科学系学部の学生との交流を通して、学生生活を充実させ、専門分野を超えた知的好奇心を満足させることができる環境が整うはず。この環境をぜひ十分に活用してほしいと思います。

移転の対象となる学部・学科

- ・理工学部(物理学科・化学科・電気電子工学科・機械創造工学科・経営システム工学科・情報テクノロジー学科)

新キャンパス移転後も時代の動向を見据えながら、弾力的な学科編成やカリキュラムの改革を進めていきます。

●自然と共生した快適空間づくり

新キャンパスには各学部の校舎のほか、キャンパスのランドマークとして高層研究棟(地上15～18階を予定)やキャンパスのシンボルとしてふさわしい礼拝堂、イベントなども開催できる広場などを建設する予定です。また、学生食堂や売店などは、利用しやすさ、便利さについて



移転が決定した世田谷キャンパス



7月21日(金)16:30より、青山キャンパスで、半田学長、西澤副学長、辻副学長、林第二部担当学長補佐、井出理工学部長出席のもと、新キャンパスの利用方針についての共同記者会見を実施。その模様は、翌日の朝日、読売、毎日、産経、日経、神奈川の各紙で報道され、7月24日(月)6:50には、NHKテレビ「おはよう日本」でも放送された。

学生の立場に立ち、十分な検討を重ねていきます。こうした校舎や各施設の建設にあたっては、敷地内にある立木を可能な限り残し、自然と共生したキャンパスづくりをめざしていきます。

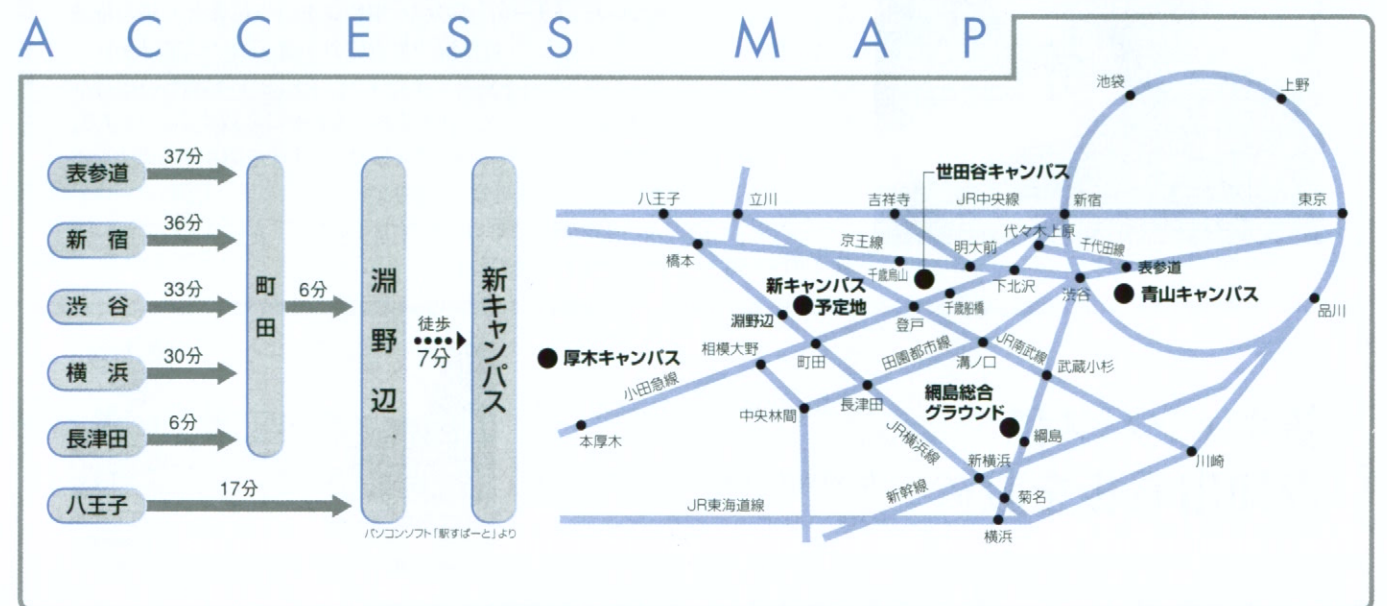
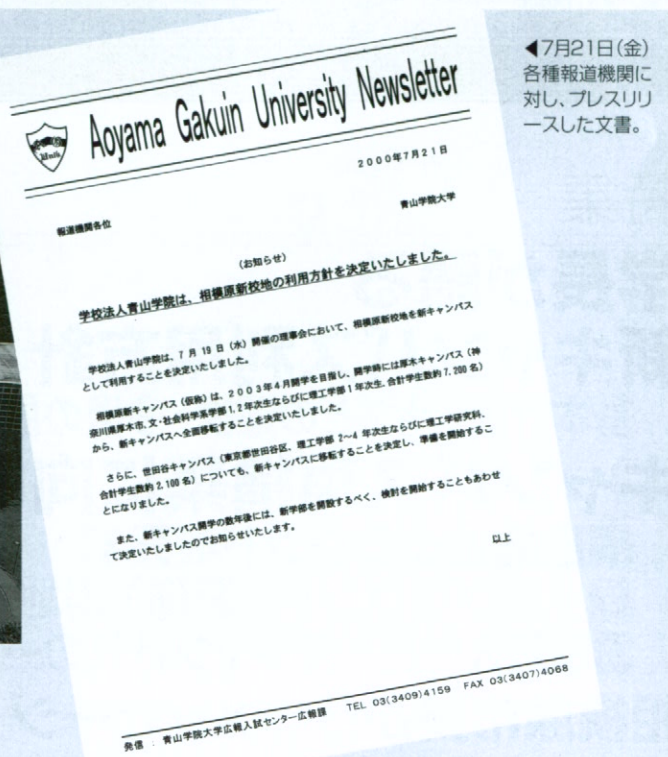
新キャンパス構想——地域との連携

神奈川県相模原市と隣接した東京都町田市の人口を合わせると、およそ100万人となります。今回の新キャンパス開設にあたっては、この地域のめざましい発展ぶりも大きな魅力でした。私たちがめざすもののもう一つは、100万市民の方々に開かれたキャンパスです。

今回の新キャンパス構想を相模原市の熱心なバックアップを抜きにして語ることはできません。同市では、工業政策の一貫として中小企業・新産業育成に力を入れており、理工学部を含む本学の移転に当初から大歓迎の姿勢を示してくれました。今春、同市はベンチャー育成の拠点となる「さがみはら産業創造センター」をオープンさせていますが、本学は理工学部を中心にこうした行政機関や地元産業界との連携のもと、社会のニーズに合致した産官学一体となった教育・研究を推進していきます。今後、新キャンパス構想が具体化するにつれて、人文・社会科学系学部を含めた様々な面で協力体制が整えられていくことでしょう。また、新キャンパスにおける公開講座の充実、キャンパスやスポーツ関係の施設設備を地域住民の方々へ開放するなど、市民レベルでの地域社会へのサービスも積極的に進めていくつもりです。



厚木キャンパス全景



新キャンパス構想——今後の展開

●9月末にグランドデザイン決定。着工は来年5月

アナログ文化からデジタル文化へ、そして20世紀から21世紀へ……。こうした時代の節目にあたって、本学が環境・立地ともに恵まれた新校地を手に入れたことは、キリスト教を理念とする本学の立場で言えばまさに「神様の思し召し」といえるかもしれません。そしてこの神の意思を最大限に有効活用していくことが、新キャンパス構想を担当する私たちの使命であると考えています。現在、私たち大学執行部のほか、各学部長、事務局代表者から構成される「新校地基本計画委員会」が組織されており、その下に具体的なプランを少数規模の基本設計作業部会やワーキング・グループが検討しています。9月末にはグランドデザインを決定し、10月より設計会社とともに基本設計に着手し、2001年4月には実施設計を完成させ、5月には着工する予定です。

「新校地基本計画委員会」では、学生たちの新キャンパスに対する要望や希望なども、できるだけ計画に取り入れていきたいと考えておりますので、今後AGUニュースなどを通して、学内外の多くの方々に新キャンパスの計画に関する情報を開示していく予定です。在学生のみならず新キャンパス構想に対するご意見等がございましたら、所属学部・学科の教員等を通してお寄せください。新キャンパスの名称についても、公募によって決定することも検討しています。

また、新キャンパス完成後までを見通すと、学内外の関係者とのコミュニケーション、すなわち大学広報のあり方がますます重要となってくるものと思われます。そのため、学生やその父母の方々、そして新キャンパスの近隣にお住まいの方々に向けた情報発信など、多面的な広報活動の展開にも力を入れていく予定です。

キャンパス再構築にむけて…



調印式

綱島総合グラウンドを売却

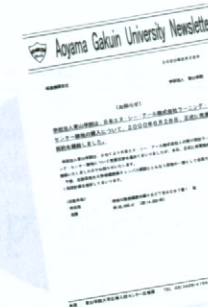
学校法人青山学院は、本学所有の綱島総合グラウンドを売却いたしました。綱島総合グラウンドは、2001年3月にサッカー場・ラグビー場・馬場を、同年9月には残りの野球場・テニスコート・マクレイハウス・トレーニングセンター・クラブハウスを引き渡すことになりました。

- 所在地 神奈川県横浜市港北区綱島上町1-1
- 地積 64,633㎡(19,585坪)

緑ヶ丘グラウンド(仮称)用地を購入

6月26日(月)学院本部大会議室において、日本エヌ・シー・アール株式会社ラーニング・センター跡地(仮称:緑ヶ丘グラウンド)の購入について、同社との間で調印式を行いました。緑ヶ丘グラウンド(仮称)は、綱島総合グラウンドの売却に伴う、大学グラウンド用地の一部として利用されることが検討されています。

- 所在地 神奈川県相模原市緑ヶ丘2丁目6097番の1 他
- 地積 約46,000㎡(約14,000坪)



日本エヌ・シー・アール(株)との調印式



現在の日本エヌ・シー・アール(株)ラーニング・センター

◀6月26日(月)各種報道機関に対し、日本エヌ・シー・アール株式会社ラーニング・センターの跡地を購入したことをプレスリリースした文書。



学校法人國學院大學との調印式



購入した國學院大學グラウンド(斜線部分)

相模原市長から本学へのメッセージ

21世紀を相模原市と共に歩むこととなった貴学を、親愛の情を込めて「青学」と呼ばせていただきます。

「青学がやってくる!」相模原市民にとりまして、この話はあまりにも突然なものであり、驚きをもって迎えられました。その衝撃は、



小川勇夫相模原市長(左)と半田学長(右)

皆さんが想像する以上に強いものであったと思います。青学の来訪は、私たちのまちが、21世紀においてよりアカデミックで、輝きと活力に満ちたものとなることを約束するに余りある出

来事でした。

今では地元淵野辺を始めとして全市が歓迎のムードで一杯になっております。

青学の皆さん、ようこそ相模原へ。

今春、本市は人口が60万人に到達しました。60万人という規模は全国671市の中でも16番目という非常に大きなものです。60万都市相模原の誕生、そして青学新キャンパスの誕生は、相模原市の輝かしい21世紀を象徴する出来事であります。

本市は、豊かな市民生活の実現を目指し、市民と行政との揺るぎないパートナーシップのもと、相模原市21世紀総合計画の推進に努めています。貴学院の教育方針が謳う「すべての人と社会とに対する責任を進んで果たす」ということは、私たちの総合計画実現への根底に流れる精神と基本的に合致するものであり、貴学と本市とが共に手を携えることは、未来を開拓する偉大な推進力となるものと確信しております。

大いなる期待を胸に秘め、2003年4月、皆さんにお会いできることを心待ちにしております。

新キャンパスに告知用看板を設置

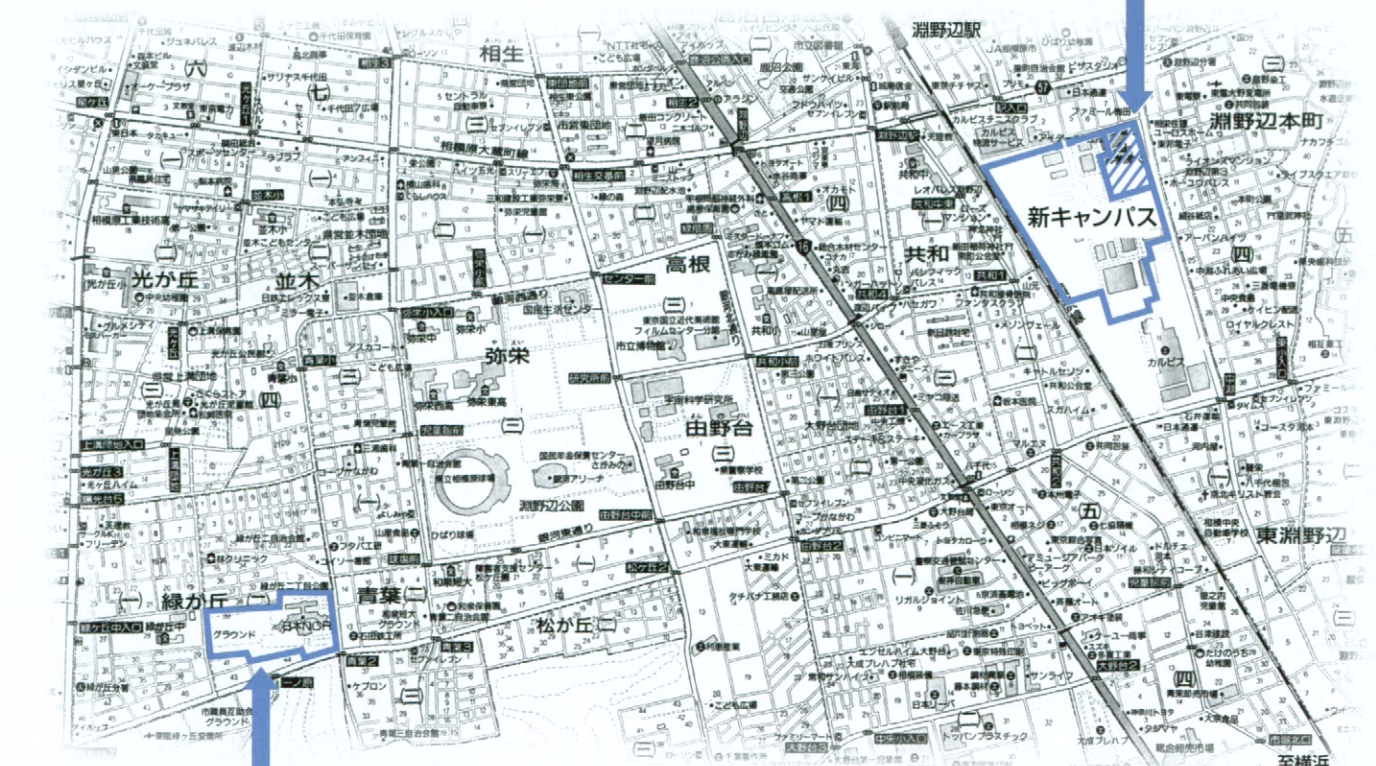
2003年4月の新キャンパス開学に向け、8月中旬に告知用の看板を設置いたしました。看板は、JR横浜線沿い2カ所に掲げられています。



國學院大學相模原キャンパスの一部を購入

当学院は、学校法人國學院大學が所有する相模原キャンパスの一部を購入いたしました。購入した土地は、新キャンパスに隣接した土地であり、教室、野球場、トレーニング施設などを兼ね備えており、新キャンパスの一部としてそのまま利用される予定になっています。

- 所在地 神奈川県相模原市淵野辺5丁目10番10号
- 地積 22,017㎡(6,660坪)



緑ヶ丘グラウンド(仮称)用地

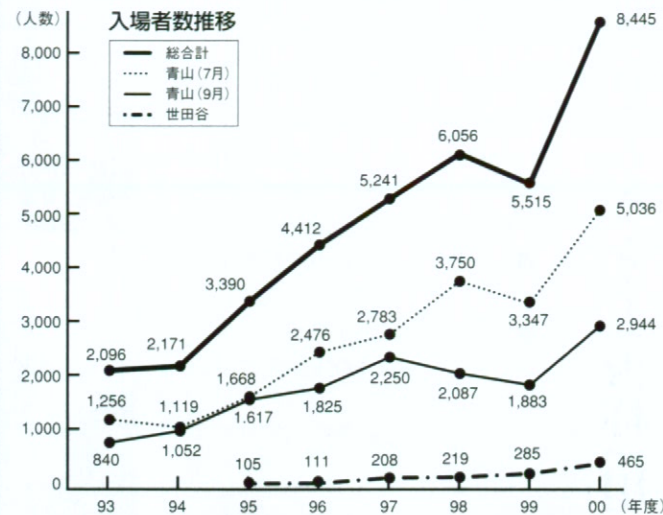
2000年度オープンキャンパスを開催

本学オープンキャンパスに過去最高の入場者を記録

2000年度オープンキャンパスは、例年どおり7月および9月の計2回開催されました。7月22日(土)に開催されたオープンキャンパスは、都内の主要私立大学と同日開催であったこと、また、朝から猛暑だったにもかかわらず、本学の入場者数は昨年を大幅に上回り、青山キャンパス5,036名(昨年度比150%)、世田谷キャンパス465名(昨年度比163%)の入場者があり、過去最高の入場者を記録いたしました。

また、9月9日(土)に青山キャンパスで開催されたオープンキャンパスは、好天に恵まれ、2,944名(昨年度比156%)の入場者を記録、大幅に過去の記録を更新することとなりました。

2回の開催の総入場者は、8,445名(昨年度比153%)となり、本学の人気の高さがうかがえました。また、「開かれた大学」として社会人教育に力を入れている本学は、社会人を対象にしたオープンキャンパスも実施しております。本年度は、7月8日(土)に青山キャンパスにおいて開催され、大学ならびに大学院の進学に関心をもつ146名の社会人が訪れました。



開催内容プログラム

7/22・9/9 於青山キャンパス

10:00 10:30 11:00 11:30 12:00 12:30 13:00 13:30 14:00 14:30 15:00 15:30 16:00 16:30 17:00

総合案内			
歓迎礼拝		歓迎礼拝	
大学紹介・入試概要紹介		大学紹介・入試概要紹介	
文学部心理学科概要紹介 (設置認可申請中)	文学部・学科紹介 (各学科ごとに実施)	文学部・学科紹介 (各学科ごとに実施)	文学部心理学科概要紹介 (設置認可申請中)
経済学部紹介・英語入試問題解説		経済学部模擬授業	
法学部紹介・英語入試問題解説	法学部模擬授業	法学部紹介・英語入試問題解説	法学部模擬授業
経営学部紹介・英語入試問題解説	経営学部紹介・英語入試問題解説	経営学部授業風景紹介・資格取得の説明(公認会計士試験等)	
国際政治経済学部紹介・英語入試問題解説		国際政治経済学部模擬授業(情報リテラシー実習)	
理工学部各学科紹介(9/9のみ)		理工学部各学科紹介(9/9のみ)	
		個別進学相談(各学部学科別)	
		学生生活・就職・教職課程相談	
		在学生との懇談(各学部学科別)	
		留学説明会	留学説明会
		LL模擬授業	LL模擬授業
リスニング試験体験(各学科・方式別に5分程度紹介) 1時間おきに実施いたします。			
大学紹介ビデオ上映(日本語版) 30分おきに上映いたします。			
大学紹介ビデオ上映(英語版) 30分おきに上映いたします。			
構内施設自由見学(外国語ラボ・図書館・礼拝堂・資料センター・記念館)			
インターネット操作体験(7/22のみ)			
	学生団体によるアトラクション	学生団体によるアトラクション	

主な開催内容から…

英語入試問題解説・リスニング試験体験

本年度は、本学がオープンキャンパスをスタートしてから8年目を迎え、従来から実施している企画に加え、受験生が求めている情報を少しでも提供できるよう、各学部の英語入試問題解説やリスニング試験の一部公開など、新しい企画を追加して、受験生に魅力あるオープンキャンパスを目指し、リニューアルして実施いたしました。



英語入試問題解説



リスニング試験体験

研究室公開

理工学部では、物理、化学、電気電子工、機械創造工、経営システム工、情報テクノロジーのそれぞれの学科が、普段公開していない実験研究室を一般公開いたしました。



多くの学生が協力してくれました……

本年度のオープンキャンパスには、従来から実施しておりました、受験生が在在校生に対して受験勉強や大学生活のことなどについて質問する「在学生との懇談」コーナーに加えて、学生団体の「吹奏楽バントワリング部」「応援団」「チアリーディング同好会」の協力を得て、中庭においてアトラクションを実施した他、大学マスコット「イーゴ」を普及するための学生団体「AMU-2000」の協力による「イーゴ」着ぐるみの登場など、たくさん



横断幕をバックに……ボランティア学生

の学生の協力を得ることができました。

また、受験生と在学生在が触れ合うことで、大学に親近感を覚えてもらうことを目的に、キャンパスの在在校生にボランティアでの協力参加を求めたところ、約30名の学生から申し出があり、受付、案内、記念品贈呈などで職員と一緒に業務を手伝っていただきました。

多くの学生と触れ合うことで受験生の皆さんも本学に対し、好印象を抱いた様子でした。



吹奏楽バントワリング・応援団によるアトラクション



「イーゴ」から記念品贈呈



学生!? 学生証を吊した「イーゴ」着ぐるみも大活躍



在学生との懇談コーナー

AGU受験相談会のお知らせ

青山祭期間中に受験生を対象にした個別進学相談会を行います。

10月28日(土) (時間) 13:00~17:00
(16:30入場終了)
10月29日(日) (場所) 青山キャンパス 総研ビル3階第10会議室

理工学部で、小型パーソナルヒューマノイド「Mk.5」誕生

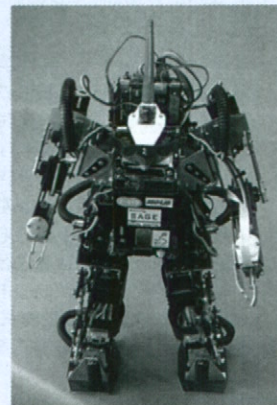
1996年以来、「E-SYSヒューマノイドプロジェクト」を進めてきた理工学部情報テクノロジー学科の富山研究室(富山健教授・古田貴之助手)は、今年小型パーソナルヒューマノイド「Mk.5」の開発に成功しました。このロボットは、全長35.6cm、重さ約2kg。きわめてコンパクトなボディに、制御用CPUシステム、カメラ、バッテリー、ワイヤレスモデム等を装備し、このサイズのヒューマノイドでは、世界で初めて人間と同じようなスムーズで安定した歩行を実現しました。

古田助手をリーダーとする「E-SYSヒューマノイドプロジェクト」は、ヒューマノイドの各要素機能を、理論・ハードウェア・ソフトウェアレベルで有機的に融合し、人をサポートする「一人一台」のパーソナルロボットを研究開発することをめざしています。プロジェクトをスタートさせた当時は、本田技研(株)のヒューマノイドも発表されておらず、この研究分野を手掛ける研究者はほとんどいませんでした。いわば先駆的なプロジェクトだったわけです。スタート当初の数少ない研究事例は、個々の要素技術に特化したものばかりで、運動制御、知覚、人工知能といった各要素機能の融合研究はなされていない状況でした。そのため、プロジェクトでは、実際に小型ヒューマノイド「Mk.シリーズ」を試作しながら、手探りで研究活動を続けてきました。1996年5月の「Mk.0」からはじまり、翌年には「Mk.1」による動歩行(いわゆる人間らしい歩行)を実現。その後、歩行機能とロボットシステムとしての完成度を高めていき、今回の「Mk.5」に至り、直進はもちろん、バックや旋回なども行えるようになりました。また、この「Mk.5」は、外部のパソコンからコンピュータLANを通して操作できるネットワークロボットでもあり、将来的にはインターネットを経由

しての遠隔操作なども計画されています。

小型ヒューマノイドの開発には、電気系統などの機能的な制限やプログラム開発のしにくさなど、開発上の多くの難関がありました。しかし、古田助手と大学院生らによるプロジェクトスタッフたちは、さまざまな創意工夫によって乗り越え、小型軽量ボディにこだわってきました。小型化は単に技術面で優れているだけではなく、コストや対衝撃性・安全性の面からもメリットが大きかったからです。たとえば、コストの面を見ると、企業の研究機関や大きな研究プロジェクトで進められている等身大ヒューマノイドの製作費は、一台あたりおよそ一億円はかかります。しかし、「Mk.5」は一体わずか70万円程度。このうち半分近くを占めるCPUモジュールの量産が可能になれば、50万円以下になるそうです。そして、2kgの自重なら、2足歩行ロボットの研究に欠かせない横転実験などを行っても壊れにくく、たとえボディの一部が破損しても、パーツの修理交換が容易に行えます。また、安全性の面では実験中の転倒で人や環境に与える危険性もありません。

今回の「Mk.5」の開発は、低予算でも高性能なヒューマノイドの研究が行えるということを実証したという点でも、大きな成果といえるでしょう。



2000年度第1回学生表彰

学生表彰は、在学生が学業及び学友会活動以外の多様な分野において人の範となる活躍又は業績をあげ、その行為が本人及び青山学院大学の荣誉となるものについて、広く内外に顕彰することを目的としています。



2000年度第1回学生表彰 受賞者

●学生広告論文電通賞

〈個人部門第3位〉文学部教育学科4年／上山禪
〈グループ部門第1位(文部大臣賞、電通賞)〉

社会心理学研究会12名

文学部教育学科4年／足立麻理・大野誠・上山禪・神津美樹・小林晃子・竹内薫・橋森知子・浜田明絵・坂西彩夏・比企真衣子・松永志保・水石絵理子

●日本材料学会 複合材料部門

第29回FRPシンポジウム

〈奨励賞〉理工学部機械工学専攻博士後期課程3年／水谷義弘

6月30日(金)、青山キャンパスの総合研究所ビル第13会議室において、2000年度第1回学生表彰の授与式が行われました。今回の受賞者からの喜びの声をお届けします。

●社会心理学研究会

「今回のテーマは『高齢化社会と広告』。お年寄りへのアンケートは、都内の高齢者サークルをみんなで足を棒にして回りました。自治体の福祉担当者にもアンケートを送付したのですが、予想以上に回収率が良く、信頼性の高いデータを作成できたと思います」(足立麻理)「他大学の場合、マーケティングや広告の研究会がほとんど。しかし、私たちの場合、綿密な調査を重視する心理学を専門としている点が、評価されたと思う」(上山禪)「2年連続で先輩方が第1位を受賞していたのでプレッシャーはありましたが、無事第1位となってホッとしています。今年の3年生もぜひ1位をめざしてほしい!」(神津美樹)



●水谷義弘 理工学部機械工学専攻博士後期課程3年

「以前私は学会雑誌の編集の仕事で、各界の第一人者や最先端の研究施設の取材を行うという得難い経験をしました。そして、その時の経験に大きな刺激を受け、『自分の頭をフルに使ってオリジナリティある研究をしよう』と、これまで以上に考えるようになりました。今回の研究は、そのひとつの成果。今後も自分ならではのアイデアで勝負できる研究者をめざしたいです!」



2000年度給付奨学金・学業奨励賞

青山学院大学給付奨学金は、各学部・に所属する2年生以上の学生で、前年度において卓越した学業成績をあげ、かつ人物において優れている者を対象に、有為な人材の育成に資することを目的に学資金が給付されます。また学業奨励賞も同様の資質を持つ学生を対象に、学業奨励に資することを目的に贈られます。2000年度は、厚木(6月20日(火))、青山(6月21日(水))、世田谷(6月28日(水))の各キャンパスでそれぞれ授与式を開催しました。

また、青山学院大学大学院給付奨学金は、青山学院大学大学院に在籍する学生のうち、学業成績、人物とも極めて優秀と認められる者に対して学資金の給付を行うことにより、将来、社会及び文化の発展向上に寄与する人材の育成に資することを目的としています。

給付奨学金

教育学科／高津香織 英文文学科／望月光子、浪間裕子 フランス文学科／守屋早苗 日本文学／乾悦子 史学科／有賀望 経済学科／島海貴裕、平位史絵、斎藤晃一 私法学科／佐藤純音 公法学科／澁谷美穂、松本謙太郎 経営学科／廣田文、御代田芽衣子、和田和樹 国際政治学科／矢澤亜紀、篠原大 国際経済学科／丸山夏名美 物理学科／堀金中正 化学科／中矢麻由子 経営工学科／田中崇太郎 第二部教育学科／長山和恵、矢野千恵子 第二部英文文学科／穂積真美 第二部経済学科／菊地隆、篠崎友子、堀江昌範 第二部経営学科／大田和佳子、和地栄、山本和代



授与式(青山キャンパス)

大学院給付奨学金

英米文学専攻／野村忠央 史学専攻／小松千鶴 経済学専攻／小嶋由樹子、中嶋一憲 私法専攻／清水あづさ、伴亜裕子 経営学専攻／小林俊雄、廣畑京子 国際政治学専攻／笠井亮平 国際ビジネス専攻／伊東俊彦 化学専攻／熊谷賢一 経営工学専攻／石井朋美

学業奨励賞

教育学科／巖美帆、瀧口美也、伊藤佳子、小河愛、池田清香、吉田幸代 英文文学科／井田亜矢乃、及川麗子、杉野雅子、安部希、臼田朝美、黒澤修、福田典子、各務聡志、隈部美里、櫻田悠子 フランス文学科／佐多三佳子、宇木千恵子、福田さくら、河野木綿花 日本文学／梅澤久実、白井麻美、大野那智、佐藤瑞恵 史学科／吉田美穂、西川由香、宮本匡高、西前英輝 経済学科／梶原佳代子、高橋道、田之倉恒太郎、南林達也、木綿基二、岩波美智子、神頭雄亮、鈴木孝輔、西脇久美子、林裕子、安達誠、石崎真理、妹尾奈津子、船田雄亮、山村真由子 私法学科／神田めぐみ、佐野由美子、篠原悠子、堀良英子、間宮千紘、杉田一博、田村貴行、中田智裕、秦真太郎、山路悦子、青山友恵、島田知恵、成川淳之 公法学科／水原義明、森見小枝子 経営学科／小庄亜実、坂田友美、中島睦、湯本雅彦、河井恵理、小林由紀、秦野麻里子、森田喬之、吉村恵里子、大網千鶴、大野美穂、門田奈巳、永峯英行、真柄剛、吉岡正貴 国際政治学科／田中路子、吉川絵美、北川由記 国際経済学科／巽幸次郎、橋本洋、門田珠子 国際経営学科／水谷一幸、中込直子、中野あゆみ 物理学科／狩野瑞奈、福岡雅子、元木彩智 化学科／加来愛花、山本裕子、吉織美香 機械工学科／林田誠、岩井理樹、朝子寛 電気電子工学科／梅野雄己、桑原潤史、根岸心 経営工学科／酒井康弘、森銅真一朗、三平裕士 第二部教育学科／岩崎孝子、杉野由佳、小川みゆき 第二部英文文学科／畠中正実、美谷島己枝、石橋聖征、若月曉美、井上美砂、梅沢和世 第二部経済学科／浅井智之、岩井田剛、福田裕子、高殿真也、中野久美、新倉克明、金澤藍歌、川端一光、水上寛 第二部経営学科／小野本善、塙泉、橘高朋子、黒川洋子、雅楽川佳子、間下充康

臨床心理士受験資格の第1種指定 大学院となる

大学院文学研究科心理学専攻(昼夜開講制)の「臨床心理学コース」が、本年7月に、財団法人日本臨床心理士資格認定協会から第1種の大学院として指定されました。第1種に指定されたことにより、2001年度の入学生からは、本専攻の認める臨床心理学コースを選択し、所定の単位を取得すれば、大学院博士前期課程修了後に1年間の心理臨床の実務経験を積まなくても臨床心理士の受験資格が得られることになりました。したがって、条件を満たしていれば、修了した年の秋に行われる資格試験を受けることができます。心理学専攻では、臨床心理士の資格を持っている教員の拡充、カリキュラムの整備、大学院生の実習施設として学外からの相談に応じる文学研究科附置「心理相談室」の開設など、高度専門職業人を輩出するための教育体制が整っています。

なお、本学では大学院心理学専攻(1958年設置)の前段階にあたる学部にはこれまで心理学はなく、長いこと文学部教育学科の中で心理学の専門教育が行われていました。しかし、心理学のカリキュラムを教育学科から分離独立させ、臨床心理学に重点を置いた昼夜開講制の心理学を2001年4月から文学部の中に新しく設置するために、現在、文部省に設置認可申請中です。

私立大学初の専門大学院を設置認可申請中

6月23日(金)、大学は文部省に対し高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的として、実践的な教育を行う専門大学院「国際マネジメント研究科国際マネジメント専攻修士課程」(昼夜開講制)の開設を申請。なお、同専攻修士課程は、京都大学、一橋大学に続き私立大学としては初めての大学院設置基準に定める専門大学院となります。また修士課程と同時に、国際マネジメント研究科国際マネジメント専攻博士(後期)課程の設置認可申請も行っています。

さらに、9月29日(金)には、国際政治経済学研究科の国際政治学専攻及び国際経済学専攻(5年一貫制博士課程)を区分制課程(修士課程・博士後期課程)(昼夜開講制)への変更、修士課程の収容定員変更について届け出を行ったところ受理されました。

これを受けて、現行の5年一貫制博士課程(国際政治学専攻、国際経済学専攻、国際経営学専攻)は、2001年度より学生募集を停止し、在学生の修了を待って廃止することになりました。

青山学院大学後援会報告

さる7月24日(月)、青山学院大学後援会評議員会がアイビーホール青学会館にて開催されました。同後援会は、大学と家庭との連絡を密にし、教育研究に必要な事業を援助する目的をもって設立された支援団体であり、在学生のご父母等の保証人によって構成されています。

主な事業は、下記の大学後援会予算決算に示されているとおり、学友会活動補助等の学生活動に対する援助、首都圏並びに地区別に開催される父母懇談会の開催諸経費から、職員の研修・教職員の福利厚生

1999(平成11)年度 大学後援会決算報告書

収入の部 (単位 円)			
科 目	予 算	決 算	差 異
前 期 繰 越 金	20,883,556	20,883,556	0
会 費 収 入	105,300,000	106,359,000	△ 1,059,000
寄 付 金 収 入	0	320,000	△ 320,000
利 息 収 入	80,000	37,062	42,938
合 計	126,263,556	127,599,618	△ 1,336,062
支出の部 (単位 円)			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生活動関係			
学 友 会 活 動 補 助	27,500,000	27,373,549	126,451
学 友 会 活 動 指 導 補 助	13,200,000	13,140,000	60,000
保 険 料	17,717,200	17,717,200	0
大 学 行 事 補 助	10,000,000	7,083,382	2,916,618
アドバイザー・グループ会費補助	1,255,000	1,255,000	0
セミナー活動等補助	1,500,000	500,000	1,000,000
構内環境整備補助	4,100,000	3,596,260	503,740
奨 励 金	1,000,000	461,132	538,868
後援会行事関係			
父 母 懇 談 会 費	27,000,000	24,576,253	2,423,747
印 刷 費	200,000	110,250	89,750
旅 費 交 通 費	100,000	60,000	40,000
会 議 費	2,000,000	1,785,386	214,614
消 耗 品 費	100,000	932	99,068
通 信 費	100,000	70,600	29,400
教職員関係他			
職 員 研 修 費 補 助	5,500,000	5,500,000	0
教職員福利厚生費補助	5,000,000	4,463,500	536,500
慶 弔 費	1,200,000	980,000	220,000
雑 費	200,000	0	200,000
予 備 費	1,000,000	0	1,000,000
支 出 計	118,672,200	108,673,444	9,998,756
次 期 繰 越 金	7,591,356	18,926,174	△ 11,334,818
合 計	126,263,556	127,599,618	△ 1,336,062

等に対する支援等その内容は多岐にわたります。

評議員会(総会)は毎年1回7月に開催され、前年度の事業報告及び決算報告、当年度の事業計画及び予算案が審議され、併せて役員を選出が行われます。今回は、新会長に那波光俊氏(郵船クルーズ(株)取締役社長)、新副会長(2名)に岩垂秀一氏(萬有製薬(株)臨床医薬研究所長常務取締役)、水谷正史氏(日商岩井(株)常務執行役員、金属カンパニー・プレジデント)をはじめ、新任・継続あわせて112名の役員が選出されました。

評議員会終了後、引き続き、青学会館において懇談会が開かれ、評議員会に出席された役員の方々、本学院長並びに学長ほか大学教職員との交歓の一時が持たれました。

2000(平成12)年度 大学後援会予算案

収入の部 (単位 円)		
科 目	金 額	摘 要
前 期 繰 越 金	18,926,174	会費収入内訳
会 費 収 入	105,960,000	第1部 @6,000円×15,820名=94,920,000円
利 息 収 入	30,000	第2部 @3,000円× 3,680名=11,040,000円
合 計	124,916,174	
支出の部 (単位 円)		
科 目	金 額	摘 要
学生活動関係		
学 友 会 活 動 補 助	22,500,000	学友会クラブ活動補助他
学 友 会 活 動 指 導 補 助	13,500,000	学友会指導者・監督への謝礼(交通費一部負担額)他
保 険 料	18,003,750	学生教育研究災害保険金
大 学 行 事 補 助	8,000,000	大学行事補助
アドバイザー・グループ会費補助	1,100,000	アドバイザー・グループ会費補助
セミナー活動等補助	1,500,000	セミナー活動補助他
構内環境整備補助	2,000,000	構内環境整備補助
奨 励 金	1,000,000	褒奨金
後援会行事関係		
父 母 懇 談 会 費	36,300,000	首都圏及び地区別父母懇談会開催諸費用
印 刷 費	200,000	役員名簿・決算報告書印刷費
旅 費 交 通 費	100,000	事務連絡交通費
会 議 費	2,000,000	評議員会・懇親会費用
消 耗 品 費	100,000	事務用消耗品
通 信 費	100,000	役員会・評議員会通信費
教職員関係他		
職 員 研 修 費 補 助	5,500,000	職員研修費へ補助
教職員福利厚生費補助	5,000,000	教職員同好会補助他
慶 弔 費	1,200,000	教職員等の慶弔費用、学友会関係祝金
雑 費	200,000	各校友会支部との懇親会補助他
予 備 費	1,000,000	
支 出 計	119,303,750	
	5,612,424	
	124,916,174	

転換期のラテンアメリカ

加茂 雄三

青山学院大学文学部史学科教授



キューバ文化省前にて

1936年東京生まれ。東京大学西洋史学科卒、同大学院国際関係論修士、博士課程中退。米国ニューメキシコ大学大学院に留学。1971年、青山学院大学史学科助教授。79年教授となり、学生部長、文学部長、副学長を歴任。専門は中南米近現代史で著書論文多数。米国ラテンアメリカ学会等の会員。

私の専門はラテンアメリカの近現代史であるが、地に足のついた歴史を研究せねばという気持ちが若い頃から強くあったため、現状分析にもかなりの時間やエネルギーをさく一方で、現地での自分の体験や、観察や、印象を大切にしてきた。大学院生のときにフルブライト留学生としてアメリカの大学ではじめてラテンアメリカの歴史を学んだときも、その勉学をたしかめるつもりもあって、留学の帰途にメキシコとキューバを訪問して、講義や文献で学んだことを自分の目で確認したり、アメリカ人学者の自民族中心主義的な外国史観に要注意なことを学んだりした。私の研究のようないわゆる外国研究もその基本は文献や資料に依存するものであることは言うまでもないが、私は、研究が現実離れた観念的で、抽象的な産物に堕するのを避けるため、若い頃からラテンアメリカに足を運んで現実を観察するよう努めてきた。その数は多分20回を越え、ときには日本人移住者の記録を残すため30年前の重いテーブルレコーダーを肩に背負って標高4,000メートルのアンデスの高地を歩き回ったり、アマゾン河の上流で床が土間で電気もないホテルで、蠅がいっぱいたかった食事をたべながら2ヶ月近く生活したこともあった。

昨年末に大学の役職から退いて時間に若干余裕ができたことや、体調もかなり好転したため、今年の春休みには外務省の委嘱で、わが国の文化無償援助の調査団の団長として中米・カリブ海のニカラグア、パナマ、ジャマイカの三カ国を訪れた。また、夏には講演のためメキシコとキューバを訪れ、メキシコでは日本・メキシコ学院で「わが国の大学の現状と課題」と題して、キューバでは「わが国の文化無償援助政策」という題で講演を行ってきた。

この2回の訪問でラテンアメリカの現実に久しぶりに接してみて、改めて世界はいまや大きく変わりつつあるな、という印象を受けたのである。私は先般行われた本学の大学公開講座で「転換期のラテンアメリカ——ポスト冷戦

と市場グローバル化のインパクト」と題して講義を行ったのであるが、そこでは、ラテンアメリカ地域がいまや大きな転換期を迎えており、その転換も単なる政治、経済、社会の大きな変化や新しい動向の出現といった次元のものではなくて、まさにパラダイムの（規範の）転換と呼べるような、時代や社会の支配的価値観の転換を指すような事態が起こっていることを具体的に分析して示した。

この地域では、20世紀に入ってから、とくに1930年代以降、国内的には政治や社会の民主化や平等化を求める声や、また対外的には国際社会での従属・依存状態からの脱却を求めるナショナリズムや工業化の動きが強まり、それらは、1960年代から70年代にかけて頂点に達した。急進的な平等化を求めたキューバや、チリや、ニカラグアでの社会主義革命の動きや、メキシコなどによる先進諸国との対等な経済関係を要求した新国際経済秩序の提唱など、この地域はダイナミックな様相を強めて、世界の政治経済の1つの焦点となった。しかし80年代に入るや、保護主義的な工業化による発展モデルの行き詰まりが表面化して深刻な経済危機に陥った。各国政府は長期化するその危機から脱却する過程で、それまでの内向きの発展政策から大転換して、平等よりも自由競争を、また福祉よりも経済成長を重視する開放型自由主義経済政策へと大きく舵を切った。80年代末の冷戦の終結とその後のソ連東欧社会主義の崩壊が、このような市場経済優位の観念をいっそう促進したのである。このような新しい政策への転換で、各国の経済はマクロなレベルで回復を示したが、その一方で、この経済成長優位政策はこの地域での貧富の格差をいっそう広げ、それが、この地域での犯罪や暴力の増加や、少数民族など社会的弱者による反抗を生み出している。

中米のニカラグアでは、1979年の革命で社会主義を志向するサンディニスタ民族解放戦線（FSLN）が政権に就いたが、冷戦終結後の

1990年の大統領選挙で、FSLNの候補者は親米保守派の候補者に破れ、96年の選挙でも保守派が勝利してこの国ではいま開放型自由主義経済政策が積極的に進められている。革命政権の時代に首都マナグアの小さな高い場所に建てられた革命の父祖サンディノの巨大な立像がいまでは手入れもされぬまま朽ちかけた姿を呈していたのが印象的であった。ソ連東欧という強力な支援国を失ったキューバは、いま新しい国際環境の中で自立的な発展を求めて懸命な努力を続けているが、ここでもドル所持の自由化や市場経済の部分的導入により、それを享受している比較的恵まれた人とそれらにアクセスできない人びととの間の実質的な貧富の差が目立ち始めている。

貧富の格差を押し広げ、社会的弱者を切り捨てていく経済成長絶対優位の新しい自由主義経済政策では真の発展が望めなく、一方ではソ連型社会主義の発展モデルが否定されたいま、この地域の発展途上国にとって、経済の成長と社会的公正のバランスのとれた発展の追求が課題となっている。いまや、キューバや他の国々にとっても、その発展は、イデオロギーや力ではなく、柔軟なプラグマティズムの精神と豊かな智慧の発揮にかかっている。

それを支える思想や哲学が重要だが、ジャマイカを訪れた際、ボブ・マレー博物館を訪れてみた。ボブ・マレーは、レゲエの王様と呼ばれ、脳腫瘍のため36才で早世するまで歌い続けた歌手であるが、マレーの歌のテーマは「愛と正義と調和」であった。この世界から憎しみと不正と争いをなくそうと死ぬ直前まで歌い続けたマレーの思想は21世紀に向けて示唆的ではなかろうか。



2000年度就職関係行事日程

いくつかある進路の中で、就職を選ぶ皆さんには、単に内定企業を獲得することではなく、どんな仕事で世のため人のために尽くそうか、と考えて欲しいのです。そのためには自分の生き方に始まり、どんな業界や企業や仕事があるのかを知らなければなりません。まず知る、そして選ぶ、という順序です。厳しいと言われる就職ですが、就職部は皆さんの就職活動を精一杯支援します。(就職部事務部長 記)



行事	対象者	日程	時間	場所	備考
就職ガイダンスⅠ	学部3年生	10/4(水)	15:00~16:00 16:30~17:30 (同一内容で実施)	青学講堂	※当日は、「進路カード」「就職の手引き」を配布します。やむを得ず出席できない場合は、後日就職部窓口へ必ず来てください。
就職ガイダンスⅡ	全学生	10/7(土)	10:00~11:30	940教室	講演会「就職という選択をした上で、あなたはどんなライフプランを描きますか」 講演:市川幸子氏(フリーライター・編集者)
就職ガイダンスⅢ	全学生	10/11(水)	14:00~15:30	940教室	情報を有効に活用し、業界・企業研究をいかに進めるかを、講師がわかりやすく手ほどき。
公務員試験対策講座	全学生	8/29(火)~ 9/22(水)	1日3コマ 9日間	610教室	申込は就職部へ。 詳細は、就職部掲示板で確認してください。
就職活動ビデオ上映		10/10(火)・ 11(水)			1日3回、2日間上映 就職活動の全容、自己分析、マナー、面接等。
業界セミナー		10/20(金)~ 12/1(金)			企業研究を始める前に、各業界ごとの概要や実態、将来性などについて、それぞれの業界で働いているOB・OGを招いてのセミナーを開催。詳細掲示。
マスコミ説明会		10/7(土)	13:10~		講師:未定
女子学生セミナー		12/2(土)	10:00~11:30		各方面で活躍しているOGによるパネルディスカッション。
Uターンセミナー	学部3年生	11/29(水)			詳細掲示。
就職関係模擬テスト	学部3年生	10月・12月			SPI対策講座、一般常識・時事とSPI対策の模擬テストを各2回実施。詳細掲示。
就職活動体験懇談会		10月~12月			充実した就職活動を終えた4年生を中心とした体験報告会。
就職活動支援システム説明会	学部3年生	10/16(月)~ 10/21(土)	1日2回 詳細掲示	就職部 第1資料室	2000年度より稼働している「青山学院大学就職支援システム」の使用法について、操作を実際体験してもらい、利便性を体感し就職活動に役立ててもらおう。
進路について考えるガイダンス	1・2年生	12/6(水)	13:30~15:00	K101	自分について考える、進路について考えるための手助けとして。
公務員ガイダンス	1・2年生	12/6(水)	15:00~16:30	K102	公務員の仕事、採用試験について。
就職相談会	1・2年生	12月上旬			詳細掲示。
就職ガイダンス(第1回)	学部3年生・院1年生	10/4(水)	14:40~16:30	理工礼拝堂	「就職関係行事日程表」の配布 就職情報誌への登録を実施
就職適性検査	学部3年生・院1年生	10/11(水)	14:40~16:30	理工礼拝堂	
公務員試験ガイダンス(第1回)	全学生	10/18(水)	14:40~16:30	未定	「資料」の配布有り
東京警視庁・防衛庁説明会	全学生	10/25(水)	14:40~16:45	未定	「資料」の配布有り
就職適性検査結果説明会	学部3年生・院1年生	11/8(水)	14:40~16:30	4307教室	
一般常識対策テスト(第1回)	全学生	11/15(水)	14:40~16:30	4307教室	(有料)
SPI模擬テスト(第1回)	全学生	11/22(水)	14:40~16:30	4307教室	(有料)
エントリーシート対策講座(第1回)	学部3年生・院1年生	11/29(水)	14:40~16:30	理工礼拝堂	「資料」の配布有り
就職講演会(第1回)	学部3年生・院1年生	12/6(水)	14:40~16:30	理工礼拝堂	「企業の選び方 Part I」 「自己分析ワークブック」の配布
面接対策講座(第1回)	学部3年生・院1年生	12/13(水)	14:40~16:40	理工礼拝堂	模擬面接を実施
就職活動報告会	全学年	12/20(水)	15:00~16:00	未定	就職活動の報告会を学科別に実施
就職ガイダンス(第2回)	学部3年生・院1年生	12/20(水)	16:15~17:00	理工礼拝堂	「今後の就職活動の進め方について」 「就職の手引」の配布
面接対策講座(第2回)	学部3年生・院1年生	1/10(水)	14:40~16:40	未定	模擬面接を実施
エントリーシート対策講座(第2回)	学部3年生・院1年生	3月上旬	10:30~12:00	4307教室	「資料」の配布有り
就職講演会(第2回)	全学生	3月上旬	13:00~14:30	4307教室	「企業の選び方 Part II」
一般常識テスト(第2回)	全学生	3月中旬	10:30~12:00	4307教室	(有料)
SPI模擬テスト(第2回)	全学生	3月中旬	13:00~14:30	4307教室	(有料)
公務員試験ガイダンス(第2回)	全学生	3月下旬	10:30~12:00	4307教室	「資料」の配布有り
面接対策講座(第3回)	学部3年生・院1年生	3月下旬	13:00~15:00	4307教室	直前対策、技術面接についてと模擬面接を実施

※追加、変更等もありますので、掲示板にて必ず確認してください。

公開講座案内

後期 青山学院大学・渋谷区共催公開講座 福祉・医療・介護

11/10(金) ●現代社会と社会福祉—共生と平和の基として—

女子短期大学児童教育学科教授 今関 公雄

11/17(金) ●ボケについて

経営学部教授 五味 慎太郎

11/24(金) ●介護保障論—介護保険と福祉—

武蔵野女子大学特任教授 三浦 文夫

12/1(金) ●自立支援の介護—その実際—

日本医科大学教授 竹内 孝仁

12/8(金) ●成人病について—成人病を予防する生活習慣—

法学部教授 小園 康範

定 員:250名

受講資格:どなたでも受講できます。ただし、渋谷区在住、在勤者優先

受 講 料:無料

時 間:18:45~20:15

場 所:青山学院大学青山キャンパス

申込期間:10/16(月)~

申込方法:電話で申し込むこと。なお、定員になり次第締切。

申 込 先:〒150-8010 渋谷区宇田川町1-1

渋谷区教育委員会 社会教育課社会教育係

TEL 03-3463-1234 内線2842・2845

OPEN CAMPUS PhotoGraph

大学マスコット「イーゴ」の
オープンキャンパスでの活躍ぶりを紹介します。



交通広告用ポスター



開催内容プログラム

史学科紹介

12:00~12:30
14:00~14:30
1232教室

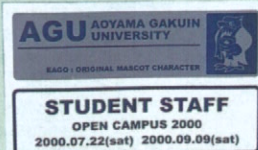
学内誘導サイン



オリジナル記念品
(携帯電話ストラップ)



書類配布用
手提げ袋



ボランティア学生用スタッフ証



学割証・証明書自動発行機が導入されました

7月17日(月)より、学割証・証明書自動発行機が設置されました。
利用にあたっては、プリペイドカードと学生証が必要です。
(学割証発行に、プリペイドカードは不要。)



【発行されるもの】

・学割証 ・成績証明書 ・卒業見込証明書
・在学証明書 ・健康診断証明書

【設置場所・稼働時間】

キャンパス	設置場所	稼働時間
青山	7号館学生ロビー	8:00~22:00
厚木	A館2階フロア M館1階談話室	8:00~20:00
世田谷	1号館エレベーターホール	8:00~22:00

※日曜・祝日・その他大学が定める休業日は取扱いをしておりません。

山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム

教育・研究環境の急激な変化は、大学図書館にも多大な影響を与え、変革を求めています。この変化に対応し、利用者へのサービス向上をはかるには、もはや一大学図書館のみでは推進し得ません。山手線沿線の以下の8大学がコンソーシアムを形成し、図書館間相互協力の協定を2000年3月に結びました。そこで相互協力に関する11項目を定め、具体的な実施にむけて検討してきました。まずその一環として、各大学図書館の所蔵情報の提供と入館利用を8月1日から始めました。加盟大学図書館の詳細は大学図書館の山手線沿線私立大学コンソーシアムのホームページ(<http://www.agulin.aoyama.ac.jp>)をご覧ください。

青山学院大学 学習院大学 國學院大學 東洋大学
法政大学 明治大学 明治学院大学 立教大学

【青山祭】

2000年度の青山祭が、10月27日(金)の準備日から28日(土)~30日(月)の本祭、31日(火)の後片づけという日程で行われます。新しい世紀に向かって新しい息吹を吹き込みたいという願いから、「息吹」を本年度のテーマのコンセプトとし、青山祭実行委員会を中心に、実りある祭典となるよう準備を進めています。ぜひ青山祭に足を運んでみてください。



クリスマス・ツリー点火祭

イエス・キリストの降誕を祝うクリスマスまでの4週間を、アドヴェント(待降節)といいます。その喜びの季節に入ることを心に刻むために、幼稚園から大学院まで青山学院全体が一つになって行われる礼拝が、クリスマス・ツリー点火祭です。今年度は12月1日(金)の夕刻に各キャンパスで行われます。一緒に、本当のクリスマスを祝いましょう。



シリーズ大学探訪

③

ジュリアス・スーパー

青山キャンパス法人本部(ペリー・ホール)前、一番右手にあるレリーフがスーパー博士です。博士は、米国メソジスト監教会宣教師として1873(明治6)年夫人とともに来日し、38年間宣教と教育に貢献しました。1878(明治11)年、津田仙などの協力を得て、築地に英学と漢学を教授する「耕教学舎」を開校しました。「耕教学舎」はスクーンメーカー女史が開校された「女子小学校」とともに、青山学院の源流のひとつとなっています。



AGUニュースについて

青山学院大学では、従来の「大学だより」に変え、掲載内容および誌面をリニューアルした新学内広報誌「AGUニュース」を年5回(1月、3月、5月、7月、10月)発行しています。

あわせて、本学ホームページには「AGU News on Web」を開設しています。ここでは、「AGUニ

ュース」の内容を抜粋して掲載するとともに、大学のタイムリーなニュースを簡潔な文字情報で週ごとにお知らせする「Weekly AOYAMA」ページも設けておりますので是非ご覧ください。

さらに「Weekly AOYAMA」につきましては、2週間分のニュースの中から主要なものを抜粋し、「AGU ニュースレター」として印刷。在学生を対象にパンフレットスタンドにて配布しています。

なお、「AGUニュース」を確実に保証人宛にお届けするため、住所が変更になった場合は、下記窓口で住所変更手続きをお取りください。

青山キャンパス(昼間部)→学生部厚生課
世田谷、厚木、青山キャンパス(第二部)

→各キャンパス学生課

AGU News on Web
<http://www.aoyama.ac.jp/agunews>